

【日 時】 平成2 引5日(土) 8時30分から12時30分

【コース】 ◆集合場所 3駅東口 ロータリー

桑名駅 ⇒ ∮ ⇒ 鎮國神社 宝物館 ⇒ 九華公園散策 ⇒

七里の渡し跡 ⇒ 北桑名神社 ⇒ サンファーレ (桑名駅前)【解散】

※半数は宝物館の前に九華公園を散策します。

(全行程 約 0Km)

【案内人】 桑名歴 D会

1班 山下 久代 さん

2班 伊藤 通敏 さん

3班 山下 博子 さん

4班 田中 浄 さん

【解 説】 鎮國守國神社 3司 嵯峨井 和風(さがい かずのり)氏

主催 : 三重県 後援 桑名市 桑名市教育委員会 協力 : 桑名歴史案内人の会

事務局

〒511-8567 桑名市中央町5丁 371番地

三重県桑名地 或防災総合事務所 歴史散策係(地域防災課)

電話: 0594-24-3821

かいぞうじ海蔵寺

法性道と号す。曹洞宗。古くは西方村にあったともいう。寛永年間(1624~1644)に中興。宝暦治水工事の際に亡くなった「薩摩義士24基の墓」がある。中央の五輪塔が工事の総奉行をつとめた薩摩藩家老平田朝負(宝暦5年=1755没)の墓である。本堂等の建物は戦災で全焼。現本堂は昭和31年(1956)再建。寺宝として平田朝負木像(昭和3年、内藤倫作)、義士を葬った際の「葬い証文」、薩摩焼焼酎徳利などがある。平田朝負の命日である5月25日には毎年祭典供養が行われる。



鎮國守國神社

九華公園散策マップ参照(桑名歴史案内人の会 提供)

楽翁公百年祭記念宝物館

昭和9年(1934)に完成。主な社宝に、「集古十種版本」、「松平定信像」、「類聚名義抄」、「松平家御具足」、「脇差 来国光」、「刀 銘鳴神」や、舞楽面、楽器、定信考案模型類、各種の古地図・古文書など多数ある。また、境内に楽翁歌碑がある。宝物館は5月2~3日の大祭日に一般公開される。

詳しくは、「桑城遺珠」楽翁公百年祭記念宝物館 解説 参照 (鎮國守國神社 提供)



楽翁公百年祭記念宝物館

九華公園散策

九華公園散策マップ参照 (桑名歴史案内人の会 提供)



七里の渡し跡

慶長 6 年(1601)正月、江戸と京都を結ぶ東海道が制定され、桑名宿と宮宿(現名古屋市熱田区)の間は、海路 7 里の渡船と定められた。のち佐屋宿(現愛知県愛西市)へ川路 3 里の渡船も行われた。宮までの所要時間は 3~4 時間と思われるが、潮の干満によりコースは違っており、時間も一定ではなかった。

ここは伊勢国の東入口にあたるため、天明年間(1781~1789)に、伊勢神宮の「一の鳥居」が建てられ、以来伊勢神宮の遷宮ごとに建て替えられている。

明治になって、東海道制度は廃止となったが、 揖斐川上流の大垣との間に客船や荷物船の発着 場となっていた。

昭和34年(1959)の伊勢湾台風以後の高潮対策 工事のため、渡船場と道路の間に防波堤が築か



れて、旧観は著しく変化し、港としての機能は全く失われた。昭和 63 年から平成元年にかけて、付 辺の整備修景工事が行われた。

なお、現存する常夜灯は江戸や桑名の人たちの寄進によって建立され、元は鍛冶町の東海道筋にあったが、交通の邪魔になるので、ここへ移築された。元は天保4年(1833)建立のものであったが、昭和37年に台風で倒壊したので、台石は元のままであるが、上部は多度神社から移したもので、安政3年(1856)銘。

『伊勢国 一の鳥居』建て替えについて

伊勢神宮の式年遷宮の際に解体される旧殿に使用された御用材は、神宮内やその摂社・末社をは じめ、全国の神社の造営等に再利用される。

外宮正殿の棟持柱については宇治橋おはらい町側鳥居となり、さらに桑名の七里の渡しの鳥居となります。

御用材は、御正殿の棟持柱として 20 年、更に宇治橋の鳥居として 20 年、そして、伊勢の入り口である桑名の七里の渡しの鳥居として更に 20 年、60 年もの永きにわたり再利用されています。

平成27年5月31日「お木曳」を、平成27年6月7日 「竣工式」を行いました。

またくわなそうしゃ きたくわなじんじゃ 北桑名総社・北桑名神社

江戸時代は三崎神朗社とも今一色神朗社とも称し、今一色の産土神である。明治 41 年(1908)に式内佐乃富神社、式内印度神社、太一丸神明社などを合祀し、現社名に改称。佐乃富・中臣神社は宝殿町にあり、壬申の乱の時に鸕野皇安(のちの持統天皇)が宝物を安置した処と伝えられる。そのため当社前には「持統天皇御舊跡」の石碑がある。戦火にて焼失、現本殿は昭和44 年(1969)再建。



平成24年5月13日総門再建。

この資料は、志るべ石 桑名史跡めぐり (平成3年3月31日 桑名市教育委員会 発行)を参考に作成しています。